

五〇年前のあなたに送る

坂本勝夫

大阪府・七三・無職

召され行く征衣^{せいゐ}に秘めし恋心

蓮のうてなで君につげなむ

この歌を葉書に走り書きして、軍用列車が下関から関釜連絡船^{かんぷ}に乗り込む直前、監視の憲兵の目を盗んで、見送りに来ていた女の人に目で合図をして手渡ししましたが、あなたの手元に届いたでしょうか。

職場の上司があなたに想いを寄せる、私の胸の内を察して、出征する前夜自宅に私とあなたを招いて、歓送の宴を催して下さいましたね。

普段あなたに冗談ばかり言っていた私が、何も言えず上司のＴさんが、

「坂本君、Ｈさんに話すことがあるのだろう」

と言ってくれましたが、自分なりに出征すれば生還は考えられないと思うと、あな

たに胸の想いを打ち明けることが出来ず、少しの間でもあなたと一緒にいられるだけで幸せでした。

宴も終りに近づいた時、あなたは突然立ち上がり、

「坂本さんのために一曲歌います」

と言って静かな声で浜辺の歌を歌ってくれましたね。そして曲が終りに近づく頃あなたは目に一杯涙をためながら、消え入るような声で最後まで歌い続けてくれましたね。私もあふれる涙を拭きもせず、あなたの歌に聴き入っていました。最後にお別れする時、あなたの手を握ったまま身体が熱く燃えました。

明くる日私は入隊し中支を転戦しましたが、胸のポケットにはいつもあなたの写真が私を守ってくれたのか、無事に復員することが出来ました。復員後あなたが胸の病で亡くなったと、知りました。

あの出征の前日の宴で、もし私が胸の想いを打ち明けてもあなたは断ったことと思います。いつまでもあなたの御冥福をお祈り致します。